

学報

2019年5月 Vol.741



平成31年度第1回学長記者会見を実施

岐阜大学大学院共同獣医学研究科設置銘板上掲式を開催	01
岐阜県食品科学研究所開所記念式典を開催	02
平成31年度第1回学長記者会見を実施	03
平成31年度入学式を挙げる	04
応援奨学生決定通知書交付式を実施	10
2019年度岐阜大学海外留学フェアを開催	11
岐阜大学生協から森脇学長に岐阜大酒を贈呈	12
春の花市を開催	13
岐阜大学学生レポートコンテスト表彰式（平成30年度）を開催	14
学位授与	16
叙位・叙勲	17
外国人研究者の受け入れ	18
産官学連携の実施状況	19
メディア掲載一覧	21
諸会議	25
主要日誌	27
人事異動（学内限定）	28

岐阜大学大学院共同獣医学研究科設置銘板上掲式を開催

平成 31 年 4 月 1 日（月）に岐阜大学大学院共同獣医学研究科設置銘板上掲式を行った。

本学は、平成 25 年度から鳥取大学と共同獣医学科を設置し、獣医学教育の連携・協力を図ってきた。

更に、獣医学における大学院教育について鳥取大学と検討を進め、それぞれの大学に共同獣医学研究科を新設し、両大学の特色を活かした共同獣医学専攻を今年度から開始する。

銘板上掲式挨拶で、森脇学長は「学部・大学院の 9 年一貫で教育できる体制が完成した。日本一、良い学部・大学院教育を展開していきたい。」、海野共同獣医学研究科長は「共同獣医学研究科では家畜衛生・公衆衛生に関して、One Health に関して、難病治療・創薬に関わる 3 つのスペシャリストを養成し、新しい時代を切り開く人材を育成したい。」と語った。

今後、国際社会・地域社会に貢献する人材育成を進めていく。



銘板上掲式の様子

岐阜県食品科学研究所開所記念式典が開催

平成31年4月3日（水）、本学柳戸キャンパス内に、岐阜県食品科学研究所が完成し、開所記念式典が行われた。

本研究所は、平成27年11月に岐阜県と本学で締結した「食品科学分野の連携に関する協定」に基づき、本学と岐阜県の連携活動の拠点として、全国で初めて国立大学法人敷地内に県の公設試験研究機関を整備した。

開所記念式典には、古田肇岐阜県知事、森脇学長、本学職員・学生、岐阜県及び食品関係機関等、約160名が参加した。

挨拶では、古田岐阜県知事は「県内のライフサイエンス分野の学術拠点となっている岐阜大学と県試験研究機関の連携を強化し、地域食材を活かした研究を推進していきたい。」、森脇学長は「産学官の連携を深め、一層地元に貢献していきたい。」と語った。

その後、関係者らによるテープカット、施設内覧会、開所記念講演会が行われた。

施設内覧会では、「香りの利き酒」を体験できる官能評価室や醸造試験室、3階の岐阜大学と県内企業・研究機関との共同研究を行う連携活動フロアを見学した。

今後も本学は地域社会の活性化に貢献していく。



挨拶する森脇学長



テープカットの様子



施設内覧をする森脇学長（説明者 矢部応用生物科学部教授）

平成31年度第1回学長記者会見を実施

本学は、4月3日（水）に、平成31年度第1回学長記者会見を実施した。

今回の会見では、森脇学長から「岐阜大酒（多望の春 岐山／曲阜）」について、「岐阜大学の将来ビジョン」と関連させて説明を行い、次いで中川智行応用生物科学部教授、奥村真衣さん（自然科学技術研究科2年）から岐阜大酒完成までの教育プログラムについて、野々村理事（学術研究・情報担当）・副学長からネーミングについて、山本教育学部准教授からラベルデザインについて説明した。

本教育プログラムでは、米造り、応用微生物学・醸造の知識、商品化・流通、健康・機能性等に関する学習について実践を交えながら、理解する、という応用生物科学の総合的学習プログラムとなっている。本学では、2015年から日本酒を開発するプロジェクトが行われ、5年間かけて完成に至った。

今回、発表した「岐阜大酒」は原料である米（ひだほまれ）、水（岐阜大学地下水）、酵母、仕込みをすべて岐阜大学生が行い、岐阜県の酒蔵で醸造した「ALL 岐阜」の日本酒である。

また、ネーミング、デザインについて、岐阜大学の愛唱歌である「我等多望の春にして」の曲名の一部が由来となり、岐阜大ブランド発展となるべく大きな希望を込めた、「多望の春 岐山／曲阜」と命名した。ラベルは古代中国の甲骨文字をもとにデザインされた。

会見では、中川教授は「日本酒に適した野生酵母が採取できず、苦労したが、学生と試行錯誤してようやく完成させることができた。」、奥村さんは「若者の日本酒離れが進む中、岐阜大学と岐阜県食品科学研究所で学んだ知識を活かして、若者が好む味に仕上げた。」と思いを語った。

今後も本学は学部横断的な学習を進め、全体を俯瞰的に見渡す基盤的能力をもった人材育成を進めていく。



岐阜大酒 PRの様子

（左から：森脇学長、奥村さん、中川
応用生物科学部教授）



ラベルデザインを説明する山本教育学部准教授

平成31年度入学式を挙行

本学は、4月7日（日）、平成31年度入学式を長良川国際会議場にて行い、学部学生1343名、大学院学生603名が入学した。

学部入学生への告辞で森脇学長は「広く日本社会にも、国際社会にも貢献できる人材になる」という志を抱いて欲しい、大学院入学生には、「大学院入学者には学部卒とは異なった高度機能が要求されており、高度職業人として自分の将来をしっかりと見つめる、あるいは研究者を志向し、しっかりと夢を持ち続けて欲しい」と激励した。

式典では、学部入学生を代表して医学部看護学科の永田 里佳さんが宣誓を行った。

医学部看護学科の永田 里佳さんは「将来の日本の社会を担う力を育むため、日々努力する」と宣誓した。



入学式の様子



宣誓する医学部看護学科 永田さん

学長告辞

平成 31 年度岐阜大学入学式

新入生の皆さん。入学おめでとうございます。本日、1,343 名の平成 31 年度入学者をキャンパスに迎えることは、私どもにとってこの上ない喜びであり、岐阜大学教職員を代表して心から歓迎します。入学の喜びと勉学の意欲に燃える皆さんのフレッシュさを私どもも頂戴し、一緒に新たな勉学の場につくことができるという嬉しい気持ちで一杯です。またこの場をお借りして、今日まで諸君を支えて下さった皆様方にも心からお祝い申し上げます。

さて告辞を始めるに当たりまず、大学における学修とは何か、また大学生として心がけて頂きたいことは何かを幾つか申し上げます。

まず勉強の仕方がこれまでとは全く違うことをしっかり認識して下さい。高校までは学校でした。今日からは大学です。これまでには授業でした。今日からは講義です。諸君もこれまでには生徒でした。今日からは学生です。ではどこが違うのか。これから諸君が学ぶのは既存の学問体系に加え、教授陣が個別に血の出るような努力を重ね築いてきた、個性的な自然科学体系であり、人文科学体系であり、社会科学体系です。諸君はそれらを学んだ上で、自分自身の科学体系を、すなわち物事の考え方を独自に構築していく、これが大学での勉強になります。

このことに関連して申し上げたいのは、とくに一年生での勉強が極めて重要であるということです。これまでとは異なった勉強の習慣と方法を身につけるのは一年生です。実際、卒業時の成績は一年前期・後期の成績と一番強く関連します。大学に入ったからと言って緩むこと無く、一年次の導入教育から全力で取り組んで下さい。

また、そのような勉強を行う上では基礎的な素養が不可欠であり、それらを修めた上で大学における本来の高等教育、高度専門教育を受けるものとされます。この基礎的な素養がリベラルアーツであり、たとえば欧米の古い図書館などでホールの上空高く羽ばたく 7 体の女神像で現されます。極めて古典的な用語を用いれば修辞学、文法学、天文地理学、論理学、代数学、幾何学、芸術の 7 つと、全体を統括する哲学です。もちろん現在これらを直接標榜する科目は少ないでしょうが、高度専門教育と合わせ、リベラルアーツも修めるという目標を心がけて下さい。次に述べる社会人としての存在そのものの根幹になります。

すなわち、諸君はすでに選挙権を有する社会人であり、**lady** あるいは **gentleman** です。大学における勉学はそのような社会人として自分の責任においてなす行動です。大学の新生としてキャンパスに入った段階で、私どもはもちろん社会も、諸君を **ladies and gentlemen** として見、また期待をします。大学とそのあとに続く社会で諸君は **lady** あるいは **gentleman** であるべく、あらゆるチャンスをとらえ努力を積み重ねていってほしいと思

います。

では次に岐阜大学の歴史を紹介し、少し自慢をさせて頂いた上で、皆さんが卒業し、社会で中堅として活躍するに至る、ほぼ10年先までの大学の将来計画を申し上げます。岐阜大学の創立は受験資料などでは1949年になっています。しかしそれぞれの学部は古い由来を持ち、中でも教育学部の前身である岐阜師範学校は明治7年、1873年の創立で146年目を迎えます。ここまで遡ると我が国で4番目に古い大学として位置づけられています。さらに応用生物科学部も1923年（大正12年）創設と大変古い歴史を持っています。工学部、医学部はいずれも昭和10年代です。このような歴史を伝えるソフト、ハード両方のアーカイブが学内のみでなく市内外にも残されていますので、何れ探訪して頂くことも楽しいかと思えます。

なお1949年の創立から数えて今年が岐阜大学70周年です。6月1日の記念式典をはじめ今年1年をかけて様々な行事が準備されています。とくに学問の府である大学には学術資産に加え芸術資産も豊富です。これらをアーカイブ化し、大学全体を博物館とするキャンパスミュージアム構想がほぼ完成しつつあります。図書館内の博物館とともに屋外の緑地も含めキャンパス全体がミュージアムの役割を果たします。6月前後にマップと索引がアップされる予定ですので、例えばタブレットにダウンロードし、キャンパス内を散策できるようになる見込みです。

次に2025年をターゲットとした岐阜大学の将来ビジョンを申し上げます。まず名古屋大学との法人統合については現在 国立大学法人法の改正が国会で審議中ですので詳細は述べません。大学の名称は法律案の中に国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学、と記載されています。

では岐阜大学そのものについて最も大事なストーリーをお話しします。まず本学は「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み・特色を有する分野において全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」を目指します。まず地域活性化の中核拠点は全学を横断する組織である地域協学センターが担い、COC 事業と COC+事業が柱です。COC は center of community の頭文字ですが、COC, COC+とも文部科学省の評価で全国ベスト1です。また国際的・全国的な教育・研究拠点として、私どもは生命科学分野 [生命の鎖] 統合研究センター、環境エネルギー科学分野の次世代エネルギー研究センター、ものづくり分野のスマート金型・複合材料研究、さらに医学教育開発センターが、いずれも国から大きな支援を得ている強力な拠点です。さらに昨年から今年、来年にかけて畜産学、食品科学、航空宇宙生産技術などの教育研究拠点が建設されます。これらの機能強化によって本学は教育研究大学として一回り大きな存在となります。

ここでとくに「地域活性化の中核拠点」と「岐阜大学が行う国際貢献」との連関についてお話しします。私ども岐阜大学が理念とする「地域」はたとえば県や市、中部地区にとど

まるものではもちろんなく、全国さらにはグローバルな貢献の発射台となる広さという概念です。またグローバルという場合の対象も漠然と全世界を言うのではなく、例えば岐阜という一地域と海外の一地域との連携を具体的に想定したものであり、新しいタームである「グローバル」という用語を用いて表現するのが、最も相応しいと思います。またその活動も双方の地域における需要に対応したものでなければなりません。そのためには教職員、学生が一体となって日本の、世界の要望にそぐう課題探求と課題解決に邁進する必要があります。従って学外へ、さらに世界へ出て行くことが重要です。特に新入生諸君には、どのような分野、対象であれ「広く日本社会にも、国際社会にも貢献できる人材になる」という志を抱いて頂きたいと願います。

岐阜大学の海外協定大学は 50 に及び、年間 600 名を超える外国人学生あるいは研究者が滞在し、キャンパスにはいつも 300~400 名の外国人留学生がいます。皆さん英語を話して下さいますし、日本語の上手な方も少なくありません。せっかくのチャンスですからどんどん国際的な交流に努めて下さい。また皆さん自身も出来るだけ早い機会に海外への飛躍にも挑戦して下さい。本学からは既に学部学生の段階で国際的な研究コンテストにチャレンジし、例えば宇宙工学、遺伝子生物学、建設工学などの分野で入賞する学生が輩出されつつあります。岐阜大学には、学生のこのような海外挑戦を支援する仕組みがかなり充実しています。

このように諸君は将来「広く日本社会にも、国際社会にも貢献できる人材になる」ことが期待される存在です。先年、ノーベル物理学賞受賞者の益川敏秀先生と対談させて頂いた折、先生から頂戴したメッセージは「若い人には、憧れとロマンを持ってほしい。それに近づく努力が成長への力になる」です。今日この場で皆さんにお届けします。

最後に私ども教職員自身の覚悟を申し上げます。岐阜大学は先に述べた理念を実行出来る人材を育てる場です。教職員自身も常に自分がそうであるべく、新入生諸君とともに努力を重ねるのは当然です。ともによき大学人であるべく手を携えて進んでいきましょう。

以上、今日からのキャンパスライフを大いに充実したものとし、また楽しんで下さいと申し上げ、告辞を閉じます。

本日はおめでとうございました。

平成 31 年 4 月 7 日

岐阜大学長
森脇久隆

学長告辞
平成 31 年度大学院入学式

岐阜大学大学院へのご入学おめでとうございます。本日、603名の平成31年度大学院入学者を迎えることは、私どもにとってこれ以上ない喜びであり、岐阜大学教職員を代表して心から歓迎します。さらにこの場をお借りして、大学院進学に至るまで皆さんを支えて下さった方々、諸先輩にもお祝いとお礼を申し上げます。

私ども岐阜大学には4つの大学院前期課程、2つの大学院後期課程に加え、岐阜大学を基幹校とする2つの連合大学院、1つの共同大学院があります。連合大学院のうち本日は岐阜薬科大学と構成される連合創薬医療情報研究科入学の皆さんが、教職大学院入学の社会人の皆さんとともに出席されています。この為、稲垣隆司岐阜薬科大学長もご列席下さっています。

なお皆さんご存知の通り、近年わが国では大学院教育の機能強化が高く謳われています。実際岐阜大学においても大学院前期課程である自然科学技術研究科が一昨年創設され、工学、応用生物科学、再生医科学を融合し、とくにデザイン思考教育を付加価値とする課程であり、今後、岐阜大学の教育で中核を形成する一つです。また同じく一昨年拡大された教職大学院、今年開設される共同獣医学研究科、さらに来年開設の準備が整った連合教職大学院博士課程も合わせ、大学院教育の特徴ある強化が急速に進んでいる様子をご紹介しておきたいと思います。

また岐阜大学大学院卒業者の社会的な躍進も、教育界、民間企業、行政機関を問わず特に最近急であり、外国大学の学長も複数生まれたことをお伝えしたいと思います。

さて岐阜大学は「人が育つ場所」を謳っています。私どもの側から申し上げますと人材を育成する場所です。ではどういう人材を大学院で育てたいのか？「学び究め貢献する」ことができる人材です。とくに強調したいキーワードは貢献です。地域貢献という言葉がすぐ浮かぶかと思いますが、私ども岐阜大学の理念における「地域貢献」はたとえば県や市、中部地区にとどまるものではなく、全国、さらにはグローバルな貢献まで視野に入れたものです。また民間企業や自治体などから何らかの要請を受けて大学院に進学された方々は、特にそれぞれが所属される場における需要に対応した貢献ができる高度職業人として大学院を卒業されることが予め期待されています。大学院入学者には学部卒とは異なった高度機能が要求されているわけで、「学び究める」内容もおのずから到達目標が規定されるものと思います。

ただし、大学院に於ける勉強の成果が卒業時にすぐ発揮出来る場合は極めて少なく、社会貢献として還元できるまでには大学院卒業から就職を経て合計20年くらいはかかるということを十分覚悟しておいて下さい。さらにこの間を高度職業人として生き抜くうえで、大学院では何を身に着けておくかも、十分考えて下さい。私ども岐阜大学の教職員は何時でもそのような相談に応じるべく用意が出来ているつもりです。

一方で、博士前期課程修了後、コースによっては博士後期課程への進学も大変魅力的な進路です。これは特に研究職を志望する方々が対象になります。ノーベル賞級の研究成果が多くは30歳前後で出ていることは事実であり、研究者を駆り立てるのは、どのような分野であれ、若い時に抱く夢のような発想です。そのような夢が自然科学、人文科学、社会科学の様々な分野でブレークスルーを生んできました。先に申し上げたこととは相いれないと感じられる方もいらっしゃると思いますが、どのような勉強であれ持続こそが力です。持続をもたらすモチベーションを生む要因の一つが夢です。高度職業人として自分の将来をしっかりと見つめる、あるいは研究者を志向し、しっかりと夢を持ち続ける、そんな大学院生として岐阜大学を楽しみ、かつ利用して頂ければと思います。

今日から諸君と一緒に送る大学院生活を大いに楽しみにしていると申し上げ、学長告辞とします。

本日は誠にありがとうございました。

平成31年4月7日

岐阜大学長
森脇久隆

応援奨学生決定通知書交付式を実施

4月10日（水）、平成31年度岐阜大学応援奨学生に対し決定通知書交付式が行われた。

岐阜大学では、平成22年度から“岐阜大学基金”による事業の一環として、人物及び学業成績において優れ、他の学生の模範となる学生に奨学金を支給することにより、学業を応援し、優れた人材を育成することを目的に、応援奨学生の制度を実施している。今年度は25名が選ばれた。

交付式では、森脇学長から通知書が手渡され、「岐阜大学基金の支援事業の趣旨を十分理解し、さらに勉学に励み、有意義な学生生活を送ってもらえることと期待しています。」と挨拶があった。

応援奨学生に決まった、中国・内モンゴル自治区出身のWENDUERMA^{オントルマ}さん（医学系研究科博士課程3年）は、「いただいた奨学金を最大限活用して研究に専念していきたい。将来的には、自国の伝統医学を世界中に知っていただける研究を進めていきたい」と抱負を述べた。

今後も岐阜大学は、学生の学業を応援し、優れた人材を育成していく。



森脇学長から決定通知書を受け取る学生



奨学生を前にあいさつをする森脇学長



集合写真

2019年度岐阜大学海外留学フェアを開催

平成31年4月17日(水)、グローバル推進機構主催『2019年度岐阜大学海外留学フェア』を開催した。本フェアは、留学に必要とされる語学力や岐阜大学における留学プログラムに関する情報提供及び留学の促進を目的として、平成24年度から開催している。

本フェアは、嶋睦宏グローバル推進機構留学推進部門長の司会のもと、グローバル推進機構長の鈴木文昭 理事(国際・広報担当)・副学長の挨拶から始まった。

初めに、留学支援係から本学の留学プログラムや支援制度に関する説明があり、続いて、国際教育交換協議会及び公益財団法人日本英語検定協会の担当者から、英語能力試験(TOEFL及びIELTS)の概要について説明があった。

その後、サマースクールプログラム、交換留学及びバロー・Vドラッグ海外研修奨学金制度により留学した学生から、留学経験に基づく発表を行った。語学力が向上したこと、多様な価値観への気付きがあったこと、新たに交友関係が広がった等、留学を通じて成長した姿が伺えた。

86名の参加者は、各担当者の説明や留学経験者の体験談に熱心に聞き入り、フェア終了後には個別質問をする等、留学への関心の高さが感じられた。

当日の様子



岐阜大学生協から森脇学長に岐阜大酒を贈呈

4月17日(水)、岐阜大学消費生活組合(以下、岐阜大学生協という。)に岐阜大酒「多望の春 岐山」、「多望の春 曲阜」が初入荷し、岐阜大学生協から岐阜大酒完成・販売を祝し、森脇学長に贈呈された。

「岐阜大酒」は本学応用生物科学部で2013年から日本酒を開発するプロジェクトが行われ、5年間かけて完成に至った。

原料である米(ひだほまれ)、水(岐阜大学地下水)、酵母、仕込みをすべて岐阜大学生が行い、岐阜県の酒蔵で醸造した「ALL 岐阜」の日本酒である。

「岐山」は白ワインを思わせる甘酸っぱい味わいの清酒であり、「曲阜」は淡麗辛口な味わいの清酒となっている。

岐阜大酒は岐阜大学生協中央店で販売している。



高木岐阜大学消費生活協同組合代表理事(左)から岐阜大酒を贈呈される森脇学長(右)

春の花市を開催

4月24日（水）、応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターにて春の花市が開催された。

春の花市は毎年この時期に開催しており、応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターで育てたサルビア、マリーゴールドなどの花の苗、ナス、トマト、キュウリ、カボチャなどの夏野菜の苗をお値打ち価格で販売するものである。

当日は、あいにくの雨にもかかわらず開始時刻前から行列ができるほど大勢の方々に溢れ、技術職員による丁寧な説明もあって、人気がある苗は早々に売り切れとなるものもあった。このほか会場では、岐阜大学のブランド観葉植物「フェアリーウイング」や、本学の花の蜜で作られたハチミツ、美濃加茂農場で採れた筍も販売された。

10時から14時までの開催でしたが、約280名の地域の方々、職員の方々に来ていただき、大盛況であった。



会場の様子



フェアリーウイング



岐阜大学のお花の蜜で作られた
ハチミツ



岐阜大学美濃加茂農場でとれた筍

岐阜大学学生レポートコンテスト表彰式（平成30年度）を開催

4月24日（水）、平成30年度岐阜大学学生レポートコンテストの表彰式がアカデミック・コアにて行われた。

学生レポートコンテストは、①優れたレポート及びその作者を顕彰することで、学生の意欲的な学びを奨励すること、②優れたレポートを公開することで、後々の学生がお手本にできる教材を提供することを目的として毎年開催しているものである。

表彰式では、森脇久隆学長等、関係者らが見守るなか、教育推進・学生支援機構の岩橋均学修支援部門長から、以下の4名に表彰状と副賞が授与され、受賞者による作品の紹介があった。

最優秀賞 教育学部社会教育講座（地理学）4年 福井寛さん

「SDGsの達成に向けた中学校社会科の単元開発ー日本の諸地域・九州地方を事例にー」

優秀賞 応用生物科学部生産環境科学課程2年 笥花菜子さん

「世界へ広がったコダーイ・メソッド」

優秀賞 工学部化学・生命工学科4年 落合寛樹さん

「日本酒度ー酸度ーアルコール度の関係性と岐阜大学生の日本酒嗜好調査結果から探る岐阜大酒の向かうべき方向」

佳作 教育学部学校教育（心理学）講座2年 桑原知礼さん

「岐阜県の公立大学と地域社会貢献」

受賞者の落合さんは「興味があることから始め、レポートを作成するうちに新しい発見等があり、学ぶことが楽しくなった。」と語った。

森脇学長からは「それぞれのテーマ設定がとても面白い。来年のコンテストも多くの学生に応募していただきたい。」と称えた。

なお、今回の受賞作品は「岐阜大学教育推進・学生支援機構年報」に掲載して、公開する予定である。



表彰状を受け取る福井さん



受賞者へのコメントをする森脇学長



集合写真

学位授与

学位の種類	学位記番号	氏名	授与年月日	学位論文名
博士(医学)	甲第1104号	たじり か としひろ 田尻下 敏弘	平成31年4月17日	DEAD-Box Protein RNA-Helicase DDX6 Regulates the Expression of HER2 and FGFR2 at the Post-Transcriptional Step in Gastric Cancer Cells (胃癌におけるDEAD-BOX RNAヘリケースDDX6によるHER2、FGFR2の転写後制御)
博士(医学)	甲第1105号	すちんごわ SIQINGAOWA	平成31年4月17日	Possible role of p53/Mieap-regulated mitochondrial quality control as a tumor suppressor in human breast cancer (p53下流遺伝子Mieapの乳腺腫瘍における発現とその意義について)
博士(医学)	甲第1106号	こう かいりゅう HUANG HAILONG	平成31年4月17日	Postoperative outcome of three different procedures for childhood glaucoma (小児緑内障における3種類の術式別の術後成績)
博士(医学)	甲第1107号	かわさき としひろ 川崎 智弘	平成31年4月17日	Dissociation between 11C-methionine-PET and Gd-MRI in the longitudinal features of Glioblastoma after postoperative radiotherapy (術後放射線療法後の膠芽腫の経時的変化における11 C-メチオニン-PETとGd-MRIの乖離)

叙位・叙勲

元本学職員に対し、次のとおり叙位・叙勲がありました。

故 名誉教授（元医学部教授） 野 田 克 己 氏
正四位 （平成31年4月10日）

故 名誉教授（元医学部教授，元附属図書館長） 大 谷 勲 氏
正四位 （平成31年4月13日）

故 名誉教授（元工学部教授） 仁 田 昌 二 氏
正四位 瑞宝中綬章 （平成31年4月13日）

外国人研究者の受け入れ（4月）

受入部局	氏名 (国・地域名)	所属・職名	期間	研究題目
工学部	モハマッド イブラ Mohammad Ibrahim ヒム Nasir ナシル Al Rabya アルラブヤ (カナダ)	石油R&Dセンター 上級分析化学者	2019/4/22～ 2019/9/18	キャピラリー液体クロマトグラフィーに関する研究 Study on capillary liquid chromatography

産官学連携の実施状況

○共同研究

(平成31年4月契約分)

部局名	研究代表者	企業等名
工学部	速水 悟	太平洋工業(株)
連合創薬医療情報研究科	赤尾 幸博	シンフォニアテクノロジー(株)・三重大学
工学部	山田 宏尚	日本ニューマチック工業(株)
工学部	中村 誠	日本電信電話(株)
工学部	木下 幸治	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
工学部	小林 孝一	馬居化成工業(株)
情報連携統括本部	村上 茂之	(株)アプリコア MSIS
工学部	櫻田 修	ジェイアール東海コンサルタンツ(株)
応用生物科学部	西津 貴久	亀田製菓(株)
工学部	王 志剛	日本パーカライジング(株)
工学部	河瀬 順洋	(株)豊田自動織機
応用生物科学部	西津 貴久	イビデン物産(株)
応用生物科学部	西津 貴久	日本水産(株)
連合創薬医療情報研究科	赤尾 幸博	BS 東日本テック(株)・三重大学
応用生物科学部	光永 徹	エスビー食品(株)
応用生物科学部	西津 貴久	マルハニチロ(株)
工学部	高橋 紳矢	三和シャッター工業(株)
応用生物科学部	西津 貴久	サントリービール(株)
工学部	篠田 成郎	(株)日水コン
工学部	吉田 弘樹	(株)NIPPO
応用生物科学部	神志那 弘明	(株)リンレイ

○受託研究

(平成31年4月契約分)

部局名	研究代表者	企業等名
医学部附属病院	大野 康	メビックス (株) / (株)クリニカルサービス
工学部	八嶋 厚	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
流域圏科学研究センター	栗屋 善雄	成長に優れた苗木による施業コンソーシアム
教育学部	吉澤 寛之	岐阜市
教育学部	柴田 奈緒美	(一社) J ミルク/牛乳食育研究会
応用生物科学部	島田 敦広	国立研究開発法人科学技術振興機構
医学系研究科	松尾 政之	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

応用生物科学部	杉山 誠	北海道大学
科学研究基盤センター	犬房 春彦	ナノベルクロ(株)
医学部附属病院	小関 道夫	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
工学部	寺田 和憲	総務省信越総合通信局
工学部	高井 千加	国立研究開発法人科学技術振興機構
工学部	能島 暢呂	国立研究開発法人防災科学技術研究所
応用生物科学部	山内 恒生	国立研究開発法人産業技術総合研究所/京都大学

メディア掲載一覧

○新聞

(平成31年4月分)

掲載日	新聞名	内容
4月1日	岐阜	自由度ある題材で学ぶ 視点, 解釈は人それぞれ ~須本良夫 教授~
4月2日	岐阜	◎研究室から大学はいま:「機械学習」でAIを賢く ~工学部電気電子・情報工学科 志賀元紀 准教授~
4月2日	岐阜	部科長人事を発表 岐阜大
4月3日	岐阜	岐阜大病院, 絵本の世界 入院する子や家族に笑顔を 図書館も協力 フェス開幕 ~医学部附属病院~
4月4日	岐阜	岐阜大と食品開発連携 県の研究所, 開所式典 ~岐阜県食品科学研究所~
4月4日	読売	県食品化学研究所が開所 岐阜大キャンパス内に ~岐阜県食品科学研究所~
4月5日	岐阜	哲学カフェ de ぎふ ~吉田千秋 元岐阜大学教授~
4月5日	中日	岐阜大付属病院 絵本 150冊ずらり きょうまで, 自由に購読を ~医学部附属病院~
4月5日	中日	こだわりの酒販売へ 岐阜大 材料オール岐阜 ~応用生物科学部 中川智行 教授~
4月6日	岐阜	◎記者ノート:岐阜市政 ~小山真紀 准教授~
4月6日	岐阜	◎サタデーコラム:シマウマの模様, 虫を排除 ~医学系研究科 國貞隆弘 教授~
4月6日	岐阜	「平成」と文学を回顧 県図書館企画展 県内出身作家ら紹介 ~林 正子 副学長~
4月6日	読売	岐阜大「食」を探求 酵母採集 学生が日本酒造り/構内で食料品開発
4月6日	毎日	市民主役の岐阜市史 1975年から現在 まちづくりに注目 ~地域科学部 富樫幸一 教授~
4月6日	朝日	岐阜大「食」を探求 酵母採集 学生が日本酒造り/構内で食料品開発
4月6日	中日	琉球列島生息の「カニアナヤブカ」 吸血源の魚 15種特定 ~教育学部 三宅 崇 准教授~
4月7日	岐阜	もっと知ろうがんのこと「4月は食道がん啓発月間」 胃がん検診とともに食道のチェックを! ~吉田和弘 医学部附属病院長~
4月7日	岐阜	岐阜大の酒 きょう発売 「岐山」「曲阜」 純県産で開発 ~応用

		生物科学部 中川智行 教授～
4月7日	中日	共同獣医学研究科 校舎に銘板を設置 岐阜大で除幕式 ～共同獣医学研究科 海野年弘 研究科長～
4月8日	中日	新たな門出 努力誓う 岐阜大と大学院入学式 ～医学部看護学科 永田里佳さん～
4月8日	岐阜	学業・研究に日々努力 岐阜大入学式, 1343人誓う ～医学部看護学科 永田里佳さん～
4月9日	中日	「食品科学研究所」産学官の成果期待 岐阜大で開所式
4月9日	岐阜	◎研究室から大学はいま：核酸で次世代医薬品開発 ～応用生物科学部応用生命科学課程分子生命科学コース生物有機化学研究室 上野義仁 教授～
4月9日	岐阜	岐阜市史に現代版 市が発刊 市政や経済など主題 ～地域科学部 富樫幸一 教授～
4月9日	岐阜	岐阜大公開講座「家庭菜園の基礎」 ～応用生物科学部附属岐阜フィールド科学研究センター～
4月11日	岐阜	本年度奨学生 25人 決定通知書を交付 ～医学系研究科3年 オン・トルマ(中国・内モンゴル自治区出身)さん～
4月12日	中日	薄墨桜の再生保護 支援に感謝し祭り 本巢 ～林 進 名誉教授～
4月12日	中日	岐阜市と協働の課題解決 岐阜大で演習授業
4月13日	岐阜	◎サタデーコラム：学力と体力の関係性を実証 ～教育学部 春日晃章 教授～
4月16日	岐阜	◎研究室から大学はいま：助産業務拡大, より安全に ～医学部看護学科 山口琴美 准教授～
4月17日	岐阜	長良川鶴飼 安全運航へ水流調査 運営協議会 昨夏の豪雨受け決定 ～工学部 大橋慶介 助教～
4月17日	中日	政策や人柄 4分野で点数化 岐阜大生 市議選候補者を分析 ～教育学部 田中 伸 准教授～
4月17日	岐阜	美濃柴犬, 毛並み競う 岐阜市で品評会, 62匹出場
4月17日	日本経済	大学トップ, 新入生にエール 新時代の旗手に 知の統合 探究心養う ～森脇久隆 学長～
4月18日	岐阜	岐阜大生が公約を分析 岐阜市議選 10段階評価, グラフ化 ～教育学部4年 「県若者の選挙意識を高める会」代表 鳥村悠登さん～
4月18日	毎日	「安全・安心」使いすぎ/主張の重点不明 岐阜大生が市議選分析

		候補者を点数化 ～教育学部社会科教育講座の3～4年生 21人～
4月20日	岐阜	住民連携, 災害に備えを 助け合う体制が必要 ～清流の国ぎふ防災・減災センター 杉戸真太 センター長～
4月20日	岐阜	◎みんなで防災・減災: 地震対策に知識深めて ～工学部社会基盤工学科 大谷具幸 教授～
4月21日	岐阜	大谷勲さん死去 法医学者, 県警嘱託医 ～大谷勲 名誉教授～
4月22日	岐阜	脳卒中治療や予防 医師が疾患を語る 岐阜大で市民講座 ～医学部附属病院脳神経外科 榎本由貴子 講師～
4月23日	岐阜	◎研究室から大学はいま: 遺伝資源で食を安定供給 ～応用生物科学部生産環境科学課程応用植物科学コース 山根京子 准教授～
4月23日	岐阜	スリランカ出身, 岐阜市のティラカラタネさん 「宗教対立の再燃心配」
4月25日	読売	岐阜大生 市議選を分析 候補者の政策 10段階評価 ～教育学部4年 鳥村悠登さん～
4月26日	中日	芸術フォーラム あす200回 「身近に面白い出来事 若い人に知ってほしい」 ～教育学部美術教育講座 野村幸弘 教授～
4月26日	毎日	飛騨牛で産官学連携 岐阜大に「繁殖研修センター」 後継者育て 出荷減少に歯止め
4月29日	中日	ランナー救急搬送 9回目初めてゼロ ～医学部附属病院 名知祥 医師～
4月29日	岐阜	◎教えてホームドクター: 発達障害⑧ 大人になって診断増加 切れ目ない支援で適切な支援を ～医学部附属病院 塩入俊樹 教授～
4月30日	中日	まちづくり自分たちで 岐阜の「平成」振り返る 若い世代定住の動きも ～地域科学部 富樫幸一 学部長～

○テレビ・ラジオ・雑誌等

(平成31年4月分)

放送日	番組名	内容
4月1日	ぎふチャン 17:40～ 「お茶の間ステーション 2時6時」	『減災ラジオ』 「山火事②」 流域圏科学研究センター 津田 智 准教授
4月17日	みのひだ放送局 11:50～12:00 まるっと岐阜 18:30～19:00	「地震 直下型①濃尾断層帯」 放送内の1コーナー (同一内容) 流域圏科学研究センター 杉戸真太 特任教授 (清流の国ぎふ防災・減災センター長)

<p>4月29日</p>	<p>ぎふチャン 17:40～ 「お茶の間ステーション 2時6時」</p>	<p>『減災ラジオ』 「歴史から災害を学び備える①」 工学部 大谷具幸 教授</p>
--------------	---	--

◇第660回 役員会

4月4日(木)

(議事)

1. 職員の功労者表彰について
2. 学外者に対する感謝状の贈呈について
3. 教育職員雇用申請について

◇第661回 役員会

4月11日(木)

(議事)

1. 役員会に附議する重要事項について
2. 平成31年度分教員人事について

◇第180回 教育研究評議会

4月11日(木)

(審議事項)

1. 学長選考会議委員の選出について

◇第1回 部局長・部長会

4月11日(木)

(協議事項)

なし

◇第1回 教学委員会

4月16日(火)

(審議事項)

1. 教学委員会委員長代理について
2. 委員会の開催日について
3. 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について
4. 協定大学等のサマースクール等における学修の単位認定について

◇第662回 役員会

4月18日(木)

(議事)

1. 教育職員雇用申請について

◇第181回 教育研究評議会

4月18日(木)

(審議事項)

1. 東海国立大学機構設立10年ビジョンについて

◇第1回 入学試験専門委員会

4月24日(水)

(審議事項)

1. 委員長代理について
2. 令和2年度入試以降の入学者選抜検討スケジュール(案)について
3. 令和2年度入学者選抜試験における情報処理日程(案)について
4. 地域科学部私費外国人留学生特別入試及び帰国生特別入試入学者選抜基準の一部改正(案)について
5. 大学院自然科学技術研究科入学者選抜基準の一部改正(案)について
6. 工学部3年次編入学試験選抜基準の一部改正(案)について
7. 工学部推薦入学Ⅱ特別入試の募集人員変更(案)について
8. 応用生物科学部3年次編入学試験選抜基準の一部改正(案)について
9. 入学者選抜に係る試験問題及び解答例・出題意図の公表について

◇第663回 役員会

4月25日(木)

(議事)

1. インフラ長寿命化計画(個別施設計画)の策定について
2. 2019年度会計監査人候補者の選定について

主要日誌

月 日	行 事 名
4/ 7	入学式
10	応援奨学生決定通知書交付式
12	連合農学研究科入学式
15	アルバータ大学（カナダ）ESTプログラム説明会
20	国立大学法人等職員合同業務説明会
22	げんさい楽座
24	リーダーシップ研修